

THE 51ST KANAGAWA ART EXHIBITION 2015

第51回

神奈川県
美術展

神奈川県美術展委員会・神奈川県民ホール・神奈川県

第51回 神奈川県美術展

The 51st Kanagawa Art Exhibition 2015

1期展 [平面立体]
平成27年9月2日(水)～9月13日(日)

2期展 [工芸・書・写真]
平成27年9月16日(水)～9月27日(日)

会 場
神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展
平成27年10月8日(木)～10月17日(土)
休館日：10月13日(火)、14日(水)

会 場
厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]
神奈川県

共 催
(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛
(公財) はまぎん産業文化振興財団
神奈川県文具事務用品団体連合会
(株) ニコニイメーjingジャパン
(株) ホテル、ニューグランド

後 援
神奈川新聞社／NHK横浜放送局
tvk (テレビ神奈川)／FMヨコハマ

第51回 神奈川県美術展 関係者名簿

(平成27年9月2日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 酒井 忠康
副委員長 林 義亮

委員
水沢 勉 五十嵐 卓 尾長 良範
福士 朋子 関井 一夫 笹山 央
船本 芳雲 川口 流坡 前田 利昭
伊奈 英次 佐藤 達也 中村 英二

審査員

平面立体
尾長 良範 鴻池 朋子 猿渡紀代子
水沢 勉 南畠 宏

工芸
石田留美子 川口 淳 笹山 央
関井 一夫 渡邊三奈子

書
川口 流坡 齊藤 紫香 西嶋 慎一
日守菜穂子 水川 舟芳

写真
伊奈 英次 前田 利昭 ミゾタユキ
三橋 純 山田 信次

出品点数一覧表

	平 面	立 体	1期展 小計	工 芸	書	写 真	2期展 小計	合 計
応 募	244人 (326作品)	38人 (41作品)	282人 (367作品)	121人 (130作品)	135人 (135作品)	166人 (375作品)	422人 (640作品)	704人 (1,007作品)
入 選	86人 (86作品)	15人 (15作品)	101人 (101作品)	79人 (79作品)	97人 (97作品)	71人 (71作品)	247人 (247作品)	348人 (348作品)
入 賞	7人 (7作品)	4人 (4作品)	11人 (11作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	27人 (27作品)	38人 (38作品)

※入選・入賞数は、平成27年7月26日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年も皆様から熱意あふれる数多くの作品をご出品いただきました。神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

神奈川県美術展は、今年で第51回を迎える県内最大規模の公募美術展です。昭和40年の創設以来、新人作家の育成と美術文化の向上に寄与し、本県における美術文化を牽引してきました。この美術展での入賞を契機に、これまで多くの方が全国、そして世界へと羽ばたいていかれた歴史を持つ、本県が誇る美術展です。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて1,007点と大変多くの応募がありました。会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた、素晴らしい作品の数々が展示されています。作家の方々が心を込め、自由な発想で表現した才能あふれる作品は、私たちを魅了することでしょう。その豊かな感性と優れた芸術性を存分にご堪能ください。

素晴らしい芸術作品は、語らずとも人々の心に働きかけ、豊かな精神を育み、生活に彩りを与える力を持っています。

県では、文化芸術のそうした力を大切にして、人々が集い、輝く、魅力あふれる神奈川づくりに取り組んでいます。皆様方におかれましては、文化芸術活動を通して豊かな感性と創造性を発揮していただき、活力と賑わいに満ちた地域づくりにより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、このたびご出品くださいました皆様の、創作活動への情熱とご努力に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

平成 27 年 9 月 2 日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第51回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に704人、1,007点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、38人、38点の作品が選ばれました。今年も、多くの方にご応募いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生をつくりあげていく大切な時間でもあると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、神奈川県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた委員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、株式会社ホテル、ニューグランド様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコンイメージングジャパン様、そのほか関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成 27 年 9 月 2 日

神奈川県美術展委員会委員長 酒井忠康

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	25
工芸部門 受賞作品	26
審査講評 書	32
書部門 受賞作品	33
審査講評 写真	38
写真部門 受賞作品	39

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	高島 美幸	千葉県	Black Board	平面
準大賞	和田裕美子	横須賀市	garden	立体
特選	大塚とみ子	横須賀市	宇宙の響き	平面
特選	大石 雪野	大和市	Reindeer [Clockwise rotation]	立体
奨励賞	美濃 寿恂	逗子市	盛土（横須賀）	平面
美術奨学会記念賞	佐々木 哲	横浜市	働く人 #12	平面
美術奨学会記念賞	三崎 安記	相模原市	渦	立体
美術奨学会記念賞	森田 和奏	相模原市	Degeneration	立体
県立近代美術館賞	広瀬 弘幸	茅ヶ崎市	遠景2	平面
はまぎん財団賞	藤森 哲	茨城県	area	平面
県議会議長賞	井澤 俊子	川崎市	美ら島の風	平面

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による、平面立体部門の該当受賞作品の買い上げ賞です。

※はまぎん財団賞は、(公財)はまぎん産業文化振興財団から平面立体部門の該当受賞者に贈られる賞です。

※県議会議長賞は、県議会議長から平面立体部門の該当受賞者に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門の大賞・準大賞受賞者の略歴は本人の提供によります。

平面

知久 茂雄	記憶の街
菊池 浄雲	息子と孫と 16 人の踊り手
藤原 千波	SPIRIT (II)
田嶋 佳子	業の山川 (秋)
鈴木 通弘	船を造る
木下 泰徳	さくらんぼ
和田 健二	OIRAN
折茂 潔	高山
神山 一美	海底庭園
前田 秀水	hito-hito-hito
田島 知実	他人の口に戸は立てられぬ
内藤 範子	葦牙
小酒井基紘	アッサンプラージュ
安田 文夫	追懐・「青鞥」の裔たち・百鬼夜行
茂野 生世	Untitled B
松田 洋子	蝙蝠が来る
岡本 緑	太古からの便り
佐々木朋子	展
茂野あきこ	白を紡ぐ (II)
林 真知子	bubble girl
大庭 京子	永遠の森「戯れて」II
渡辺 幸子	命
横山 孝司	木の根元 No2
宮本 弘子	五月の森
山脇 勇大	Moire
印藤 有希	食べる人
吉野 絢	生者の行進
鈴木沙也果	18 番線
西川 絵里	room mate
塩浜妃奈子	clear
阿部 水咲	ポートレイト
中村 花絵	a moment 01
五野上美緒	老女の夢
望月 文人	Under the ground, above the water_Light
安藤 節子	通りすぎた風景
横山 博志	黄泉
菅野 純代	あたたかい手
柚木 幸夫	黄昏の尾道
榎谷 杏子	いとなみ

辻本 興一	横浜展望
澤田 サチ	華流
敏・stアシュレ	横たわる男
又原 冥	空谷の聲音
渡辺 佑基	▽
白石 武市	始めてのステップ
飯村 優介	ヤマカミノ象
桜井 敬子	風景の記 2015
船津 雅子	顔
関 迪子	「コンポジション夏」
阿部 剛	Ecology
茅野のり子	My world
和田美智子	想念
蒲田 宏	恋人たち (スリランカにて)
佐々木房子	いつも一緒に
廣竹 成信	うねる大波
池田八重子	気ままがいいね
泉 桐子	緑の庭
加藤 哲郎	擬態
藤村 弘子	RUIN
横山 将二	黎明
蒲生龍一郎	厚木南毛利上空の秋鷲
別府 雅史	夕立、恐竜の死
竹内めぐみ	うすやみ
亀山 治代	域 II
手賀 彩夏	連れていかれる
一ノ木タツミ	都合よき者たちへ
石河 靖子	タウン
服部 良美	すきまの色み
吉田 純子	みなもを聴く 2
勝山 治実	生きるといふこと
TETTA	inclouds, S15, N17, S10, N26, S23
葉山ひなの	青い牛と女
佐藤 英行	魚 (ギョ)
佐藤知恵子	模写 嵐のスケフェニンゲン海岸
原 透	逃れられない未来のために
金子 透	ESPACE (1000 万個の粒子(点) から成る空間)
矢沢 進	青春時代

※掲載は作品番号順です。

平面

河野 良雄	聖肅
吉田きつ子	在りしものー2
山本 諭史	横浜散策
金澤 博司	A-2
高本 奏	無題
城倉 綾子	HAPPO・北尾根
井口 信	うわのそらのはなし
元木 秀信	あたりまえの中にある大切なこと
松本 啓希	積層

立体

小野島夏子	和の風景 ー粉飾幻想ー
伊藤 昭仁	虚ろな道標
関谷 輝	Horn to You
相澤 秀人	unstable normal
藤田 明美	almost a human
石川 直也	ムーアの猫
三森 早苗	空をうける
尾崎 拓磨	crawl
竹村 芳樹	1・3・2
上浦 佑太	twist 1507
石橋 聖肖	STILL LIFE 花咲く日のために
戸張 花	MASS
奥山 陽太	ANAGRAM
河原 明	夕暮れのセーヌ
中谷真理子	#2 いつも

様々な作品を前にしての審査というものは、極めて困難な作業でありながら、描かれ作られた作品の向こうにひとつの真実が横たわっているという感覚に救われる経験であることを、まず小さな声で告白しておきたいと思います。

それはいかなる作品も一人一人の人間の有限の生活の中から生み出された美であり、人間の生々しい生の痕跡であることを知るという感覚に他なりません。魔法のように一瞬の内に、怪しげな白い手袋が生み出した作品などどこにもないのです。オクタビオ・パスの『マルセル・デュシャン論』の冒頭を思い出すならば、「マルセル・デュシャンとパブロ・ピカソという両極の間で生まれた」近代芸術すべての向こうに、その制作者一人一人の生の生活があったように、自明といえはあまりに自明な、生活者として生きることの生々しい質感の連なりの体験こそが、実は芸術体験の醍醐味と重なるものであることを、今回の審査においても爽やかに実感させられることになりました。

そうした思いを前提に、今回の受賞作品の講評を述べていただきたいと思います。

まず大賞の高島美幸氏の「Black Board」は、応募作の中では少ない版画作品（銅版画）でありながら、第一回目の審査から満票を獲得し続けた作品でした。コミカルな女子高校生の姿との対比によって、黒板に象徴される、メインモチーフである現代の深い生の心理的空間を、繊細にして堂々たる画面として表出した作品で、銅版画のさらなる可能性を指し示すとともに、技法を超えて、視覚への新鮮な訴求力を突き付けるものとして、高い評価を受けました。

また僅差で準大賞となった和田裕美子氏の「garden」は、3人の少女たちがそれぞれの髪の毛をレース編みのようにつなげて出来た、不穏なモノクロームの庭に座するというもので、髪の毛とか細い回路を通してしか伝わらない、痛みにも似た小さな感覚を素材とするかのような、見る者にその場を離れたい不思議な感傷に引き込む作品でした。

図らずも、ともに少女的世界に潜む死のニュアンスを援用した作品の大賞準大賞の受賞となりましたが、この符合はおそらく生を希求する、切実な思いの裏返し表現として受け止めるべき結果であり、ここにはまさしく現代の生活者の叫びが投影されているといえるのではないのでしょうか。

特選の2名、大塚とみ子氏の「宇宙の響き」は、一筆一筆湧き出る生命の誕生を表わすかのような筆致で描かれたアクリル画でした。いつまでも見終わらない錯覚に陥るような画面の強度はいったい何に由来するものなのでしょう。受賞決定後に79歳という年齢を知り、作者自身の生に対する畏敬とともに、絵とは真に何を映し出すものであるのかを考え

させられることになりました。

もう一人、大石雪野氏の「Reindeer [Clockwise rotation]」は、生まれたばかりのトナカイの姿をデフォルメし造形化した彫刻で、どこか大きな螺旋を描きながら、生命系図のように立ち上がっていく樹木にも見える、こちらも生命感溢れるダイナミックな作品として、衆目を集めることになりました。

県立近代美術館賞の広瀬弘幸氏の「遠景2」は、卓越した描写力をもって描いた海岸風景ですが、そのタイトルが示すように写実を超えた遠景なる世界の表れとして、充足した画面を創り出してくれました。

はまぎん財団賞の藤森哲氏の「area」は、噴火口を単色と圧倒的なストロークの力によって描いた力強い作品でした。具体的なモチーフを描きながら、抽象性の高い画面へと変容させ、その独自の明快な絵画観の表れは強い印象を残すことになりました。

県議会議長賞の井澤俊子氏の「美ら島の風」は、沖縄に材を得た独創的な絵画作品ですが、爽やかに吹き抜ける南国の風を見事に描き切っています。

奨励賞の美濃寿尙氏の「盛土（横須賀）」は、どこにもあるような盛土の風景でありながら、海とも空とも読み取れる背景との対比によって、その何気ない風景を緊張感みなぎる絵画の画面へと変える、高い意識の表れに感銘を受けました。

優れた若手出品者に贈られる美術奨学会記念賞は3名。三崎安記氏の「渦」は和紙による立体作品。渦の集積によって、重力から解き放たれたエレガントなフォルムを生み出し、同じく立体の森田和奏氏の「Degeneration」は、機能を持たないフォルムのおもしろさを謳う、さまざまなオブジェのアッサンブラージュによる、ダダ的な作品として評価されました。佐々木哲氏の「働く人#12」は、白い倉庫の壁面と暗い内部を覗かせる開口部との巧みな対比という、美しい色面を生み出すセンスが光る絵画作品でした。

すべての入選作品に触れることはできませんが、総評として実力を具えた作品が順当に評価を得たということがいえるでしょう。

冒頭で触れた、それぞれの生活の中から紡ぎ出された美の尊さに思いを馳せるとき、改めてこの県展という展覧会の使命が、ひとしお切実な実感とともに自覚されることになります。それは労働者という謂とは根源的に異なる、真の生活者としての、小さくとも命懸けの表現に対する感性を、制作者であれ鑑賞者であれ、もう一度思い出すということに他なりません。大切なことを改めて考えさせられた審査となりました。ありがとうございました。



大賞

Black Board

高島美幸

銅版画 103×219cm

[略歴]

1991年 千葉県に生まれる

2014年 女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻 卒業

現在、女子美術大学大学院 美術研究科修士課程版画研究領域に在学

[展示歴]

2014年6月 高島美幸展 (gallery.b.tokyo)

2015年2月 日本版画協会第82回版画展 受賞者展 (シロタ画廊)

7月 中村美穂・濱田路子・高島美幸展 (養清堂画廊)

[受賞歴]

日本版画協会第82回版画展 A部門奨励賞





準大賞

garden

和田裕美子

貼子、髪の毛、石塑粘土
180×180×50cm 3kg

[略歴]

1981 神奈川県生まれ

2005 多摩美術大学美術学部彫刻科卒業

[個展]

2013 ギャラリー Q、東京

[グループ展]

2011 「第2回 D アートビエンナーレ」(優秀賞) ダイテックサカエビル、愛知
「D-art Biennale Art Award 2011」 Y++ Gallery Triwizard、北京

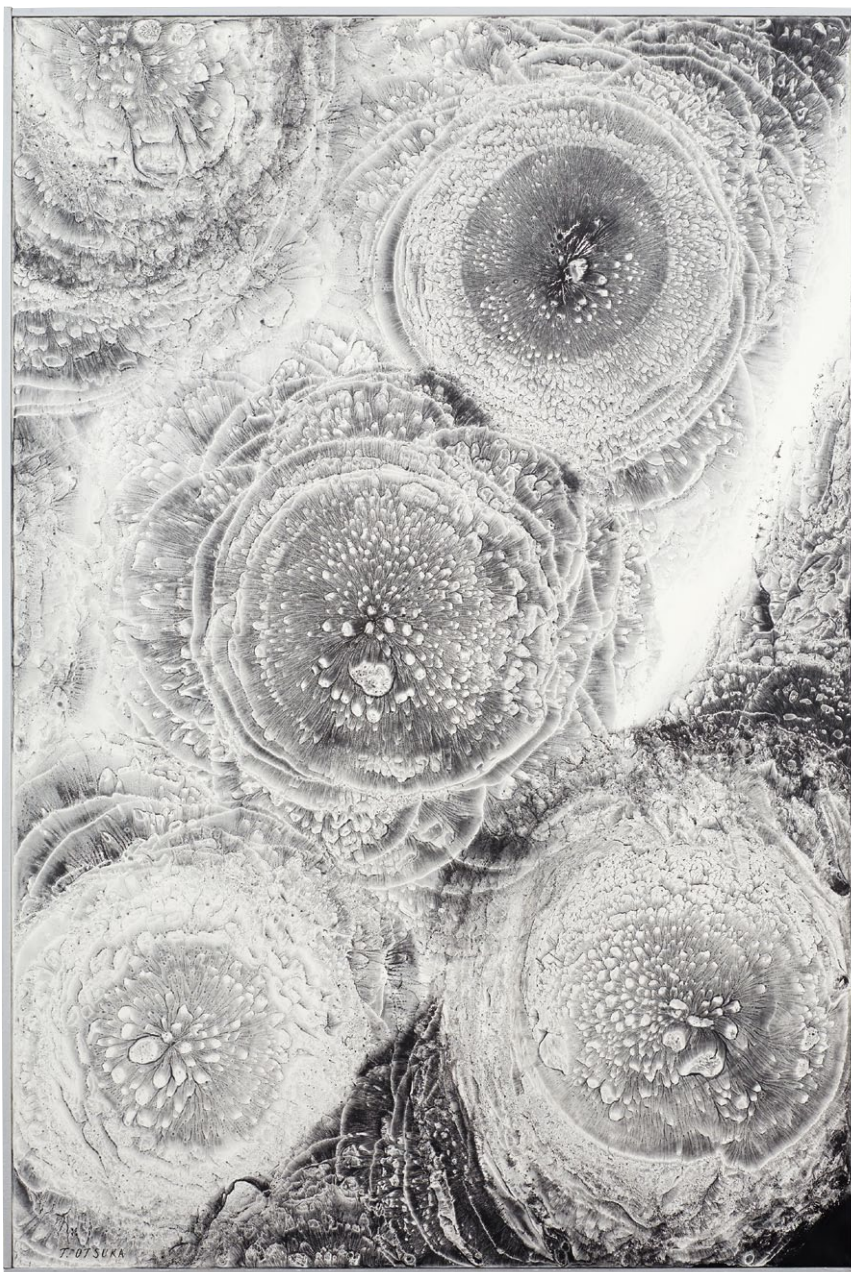
2013 「TAGBOAT ART FES」都立産業貿易センター、東京

「3331 アンデパンダンテン」千代田アーツ、東京

「HEARTWAMING 2013」ギャラリー Q、東京

2014 「Story Time Girls 2014」ギャラリー Q、東京

「HEARTWAMING 2014」ギャラリー Q、東京



特選

宇宙の響き

大塚とみ子

パネルに紙、アクリル、水 194×130.3cm



特選

Reindeer [Clockwise rotation]

大石雪野

FRP 80×180×210cm 100kg



奨励賞

盛土 (横須賀)
美濃寿恂

キャンバス、油彩
130.3×162cm



美術奨学会記念賞

働く人 #12
佐々木 哲

キャンバス、アクリル
162×130cm



美術奨学会記念賞

渦
三崎安記

和紙
240×200×140cm 8kg



美術奨学会記念賞

Degeneration
森田和奏

ミクストメディア
120×60×120cm 25kg



県立近代美術館賞

遠景2

広瀬弘幸

キャンバス、油彩 116.7×182cm

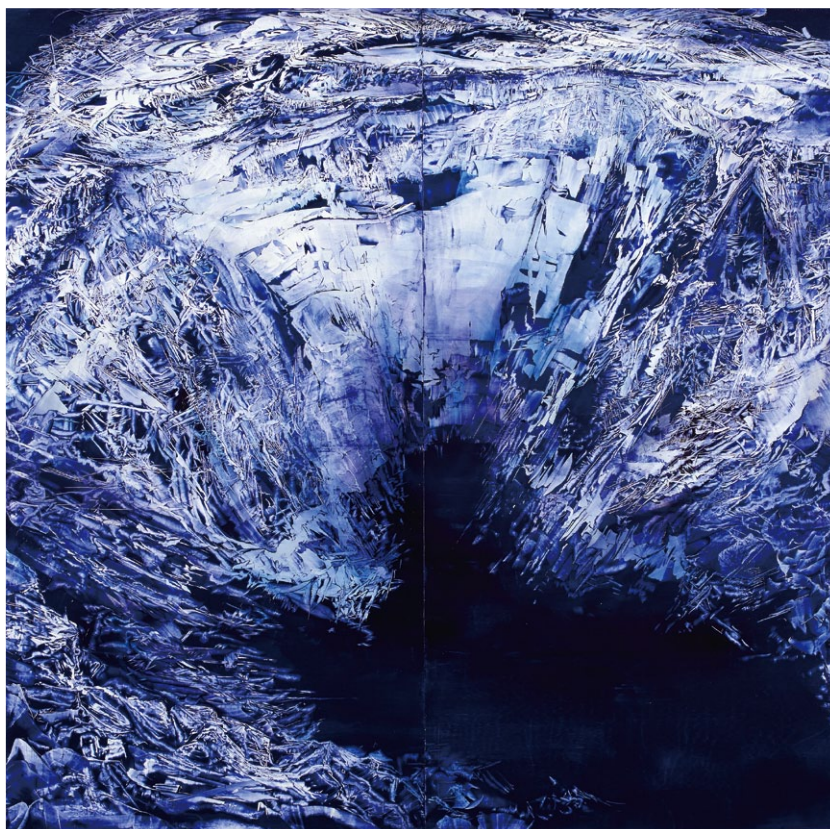


県議会議長賞

美ら島の風

井澤俊子

キャンバス、油彩 194×162cm



はまぎん財団賞

area

藤森 哲

油彩、パネル 237×238cm

工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	宮尾 洋輔	足柄上郡松田町	Bench. Trust	ガラス
準大賞	今林三恵子	横浜市	訪れの跡	金工
特選	興石 孝志	横浜市	全ての空間がパズルのピースになる瞬間	切り絵
特選	原 祥子	相模原市	竹秋	染織
奨励賞	玉川 哲也	東京都	開	ガラス
美術奨学会記念賞	浅井 友里	相模原市	犬	ガラス
美術奨学会記念賞	山本貴美子	横浜市	mayim mayim	陶芸
美術奨学会記念賞	千葉 真理	横浜市	仮面舞踏会	染色
ホテルニューグランド賞	石橋 聖肖	茅ヶ崎市	夢想家の寝室	金工

書

大賞	石井 久美	中郡大磯町	まちのあかねのトルファンの風
準大賞	阿部 馨月	伊勢原市	摘草
特選	生駒 蘭嵩	鎌倉市	王安石詩
特選	兎澤 羊舟	横浜市	鴛湖舟中翫月
奨励賞	森 俊行	横浜市	三十六歌仙のうた
美術奨学会記念賞	川崎 純子	中郡大磯町	後藤美華の詩 無花果
美術奨学会記念賞	日守 鍊	中郡大磯町	痛みの彫刻
美術奨学会記念賞	岡田 佳舟	横浜市	黄鶴樓
県文具事務用品団体連合会賞	池田 玲子	横浜市	白香山詩

写真

大賞	小川 賢	横浜市	顔	2 枚組
準大賞	稲垣 健	横浜市	夏の記憶	
特選	馬場 純子	横浜市	雨上り	
特選	大澤 勇	横浜市	曼荼羅	
奨励賞	高橋 春生	横浜市	台風一過	
美術奨学会記念賞	糸川 将志	横浜市	眼差し	3 枚組
美術奨学会記念賞	鈴木 元彦	川崎市	光の空間	3 枚組
美術奨学会記念賞	星崎 裕基	小田原市	静かな雨	3 枚組
ニコン賞	牛木 実	横浜市	波飛沫	

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、(株)ホテル、ニューグランドから工芸部門の該当受賞者に贈られる賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、県文具事務用品団体連合会から書部門の該当受賞者に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンイメージングジャパンから写真部門の該当受賞者に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門の大賞・準大賞受賞者の略歴は本人の提供によります。

入選作品目録

工芸

夏川統二郎	ミミ	陶磁
笠原 頼子	国の宝	人形
小林 伸年	いのち再び（帽子掛け）	木材工
粟津 千慧	turtle	染織
渡邊亜紗子	語りかける者 一流舞ー	陶
藤波 洋子	躍動	陶
清水 実	木の輪	木工
深野 怜	染付銀彩皿「南風」	陶芸
川泉 孝一	天目釉白彩花器	陶芸
森岡由記子	如意輪観音	人形
古坊 聖子	希望	陶芸
海部 温子	雪原の遠吠え	金工
大原 乾資	藍の板締染	染
舟橋 真弓	大和絵・小寺礼三「稚児文殊」模写 ステンドグラス	
大塚 国男	ピサロのすみか	陶芸
菅谷 美子	スモークガラス大鉢	ガラス
黄 美真	OVERFLOW	ガラス
山崎 雄央	tomorrow	ガラス
石井 征夫	“チェリー球状星団”	ガラス
吉池ちひろ	古布鞠	吊るし鞠
千葉ひろみ	かあにぼる 2015	陶芸
志賀 邦範	三竜0915	陶芸
中山 愛子	繋ぐ7th	陶芸
大野 澄子	赤い花 白い花	陶芸
阿部 貴央	P ロケット	吹きガラス
上野 弘子	水盆	陶
福田 典子	雪の日に咲いて	七宝
石橋 伸一	草原の“SAEZURI” 2015	漆
飯野 一代	HARMONY	陶芸
金子 恵子	ring（環）	染織、刺繍
小酒井基紘	アフリカ象の行進	織物
片桐れい子	コブダイ より子	タイル
尾形 政子	森の詩	木工
三浦 静香	累々	ガラス
安藤由美子	練り込み角皿 層	陶芸
松本 充央	鉄彩釉大瓶	陶芸
音丸 孝	彫漆盛器「浮釣木」 彫漆、蒔絵、乾漆	
鈴木由美子	みすゞ（みんなちがってみんないい）	陶芸

竹川 恵子	ワインクーラー	ガラス、江戸切り子
代田 幸江	七宝文蒔絵小箱	漆
村井 紅音	訪問着 ー野花ー	日本刺繍
新村 和泉	たてよこ緋	染織
高橋 英昭	土を織る	陶芸
古川いずみ	宇宙とDNA	染色しぼり
下平久美子	爽奏	陶芸
山根 悠介	白磁純銀火屋香炉	陶芸、彫金
興石 孝志	迅	切り絵
原田 克治	悠久	陶芸
二俣 吉秀	革つむり	革工芸
齊藤未奈海	翔	ガラス
杉田 瑞希	コスモス	染織
宮川香代子	ケルト dream	漆工芸
吉田 浩一	花宇宙	ガラス工芸
中根 和広	食卓椅子	木工
田中 ちか	共生	陶芸
石川 博英	UNSTABLE n' STABLE	金工
稲葉 静江	潮風のつぶやき	ガラス
野村 裕之	春の星空（星座）	陶芸
熊澤美智子	森林浴	和紙絵
岸 恭子	栓ばかし染拭漆盆	漆
戸木田栄美	悦びの日	陶芸
乙坂 明生	枯華器「ダークブルーなジェリーフィッシュ」	陶
高口二三子	持続天皇	金工
鈴木 典子	悠久	陶
生頼美砂恵	声	陶
内藤 博隆	ハチドリ ーTENSYOUー	木工
福島 義将	移ろう塊	和紙絵
林田 洋子	思いを色に重ね織り	陶芸
永井 貴子	静かに咲き誇る	和紙絵
山寄 直子	あんだーザ・Sea	陶芸
栗本 明美	花器	陶芸
小林 隆子	トルコ青釉組皿	陶
五十嵐里美	宇宙の月	染色
木村美智子	折り紙桜組鉢	陶芸
北原ふみ子	宙	陶
高野源太郎	染付木蓮文六角陶管	陶芸

※掲載は作品番号順です。

工芸

石河美和子	はらっぱの音	染色
小林 忠生	花台	木
眞貝 竜一	イカ	鍛金

書

竹内絵里子	加代子の詩 のどかな昼下がり
山本 清子	阿佐見房子のうた
竹内めぐみ	楊千の詩 夏の夜空
木村 純子	祈りを捧ぐ
福田 夢澄	河川敷にて見上げる二人
平澤 毅	各駅停車で
児玉 真理	明石海峡
大木 明子	横浜港の化粧
竹内千恵子	菜穂子の詩 けむる雨
中山 政子	運慶の仁王像
小林 千幸	梅雨のあとさき
片平 堯子	清しきものより
松尾 純子	湾岸線
深瀬加代子	月と狼 中山政子の詩
本間 琴秀	相聞 芥川龍之介の詩
平船 清流	遠い太陽のように 野田宇太郎の詩
久村 拓司	東山魁夷の文
福本 泰子	晩夏光
馬場 虹苑	青木香流の詩 柿のいろずきに
上野 春海	短歌（温のうた）
長井 黙庵	菊地悦子の詩「蒼い響き」
岡田 明子	沈黙の隙間 詩 古屋恵美子
谷内 秀翠	宮本博志詩 暮れなずむ海に
榎本 蘭方	新古今和歌集（月の影）
相根 恒舟	あしひきの
多田 文江	百人一首
三村 早苗	百人一首
河又世津子	秋はぎの
加藤 美和	秋萩
猪野 光舟	簡事養精神
中田 早苗	心洗爲香
牛山 香流	陳宗之詩 擬陶 二首之一
片岡 稻處	岑參詩 早秋与諸子登號州西亭觀眺
浅野 堯慎	述懷
浦 堯秀	蓬萊三殿侍宴奉勅詠終南山
神山 紅雲	王漁洋詩二首
浅見 玲湖	和許給事直夜簡諸公
大八木耕一	霧
中村久仁江	一途なる顔

書

武 啓茜	吉野山
佐々木永隆	夜半の月
河田 和代	くれなゐの
鳥海 富子	すずめ子の
猪俣 香浦	袁枚詩
土屋 景曄	汪琬詩
根岸 玲香	劉嗣綰詩
舟田 春露	傅梅詩
松前 沙瑛	李東陽詩
木下 清華	わが宿の
三橋 和泉	岑參詩二首
小松 公子	若山牧水の歌二首
池上 恵峰	花咲く春
森崎 愛芳	劉基詩
島村 秀芳	杜甫詩
渡部 祥優	沈佺期詩
小磯 栄芳	長安秋夕
重田 鶴耀	唐彦謙詩
清水 理佐	旅なれば
松田 栖舟	二月二十七日舉亭山下看桃花二首(其一)
森 秀麗	酬暢當嵩山尋麻道士見寄
吉永 幽徑	龍泉寺絶頂
加藤 香華	別鄭蟻
新井 幸舟	錦瑟
上村 泊舟	九日齊山登高
高木 香葉	黃陵廟
橋本 紫柳	和趙相公登鸛雀樓
横山 聖水	環溪觀玉蘭同朱秋崖陳冰壑
荒川 涼舟	碧溪
佐藤 清紫	中年
深見 萌彩	次北国山下
吉川 理芳	曉渡平羌江步上凌雲絶頂
柿沼 芳秋	雜詩其一
中山 壽香	江際
柿沼 柏苑	秋杪薄暮登北固木末樓即事
池田佐和子	いづことも…
鈴木 良子	「あさみどり」他五首
黒沢 玲香	「九日登高」杜牧詩
山田 栄恵	月夜には…(古今)

中澤 春雪	鳴く蟬の(新古今)
遠藤 子杏	前例可援
金子 流川	有教無類 和神
樋口 寒月	墨林星鳳
山口さゆり	敬義立而徳不孤
徳原 玉菰	鶴舞
按田 祥鶴	游覧
大木 英泉	披荒
石黒 雅彦	山河
鯉沼 紫虹	藍仁の詩
平田 紫穂	文武天皇の詩
滝川 実桐	いのらずとても
菊井 康之	小島切
水本 知葉	大方廣佛花嚴經入法界品 第三十九之五
小山 莊雪	天平山
八十川茜舟	万葉集 6 首
小山八夜子	一鳴驚人
猪野 公一	美意延年
古里 航	身逸心曠

※掲載は作品番号順です。

写真

渡辺 脩子	白い大地	
永島 保男	人形にサイン	
松本 勝治	カモシカとの遭遇	
藤波 彰	スポットライト	
新城 英一	白日夢	
金子 正隆	緊張してます	
小松 智視	閉じゆく小世界	
茂木 行雄	惑星の午後	2枚組
内田 賢智	神々の森	3枚組
山本 雄二	光る翅	3枚組
清水 治弘	終焉へ	3枚組
伊部 慶一	終演の輝	
宮坂 駿一	古紙再生	3枚組
山下浩一郎	和室の夢	
皆川 幸恵	優しい時間	
岡本 梨絵	Spring	
石井 良二	古民家の秋	
笹谷奈翁美	春のおわり	
西沢一比古	船溜り	3枚組
今野 良一	出漁待ち	3枚組
相澤 演義	緑の回廊	3枚組
栗原 幸彦	つゆの日	3枚組
古郡 和敏	消えゆくふるさと	3枚組
商 家訓	ゴンドラの詩	3枚組
加山 邦輔	帰省〈春・夏〉	3枚組
小島 満男	千箇鏡	
古澤 直代	薫り	
津田 祥夫	異形の街	3枚組
原田 茂雄	廃工場跡	3枚組
栗原 茂	南無三宝（仏法僧）	3枚組
牧山 俊雄	望郷	
土屋 義昭	幻影（大岡川）	3枚組
庄司 精一	水の造形	3枚組
大貫 正志	暝色カフェの空間	
佐藤 昌弘	心象・Jan, 2015	3枚組
道越 忠昭	浮島 in Blue	3枚組
渡部 政典	琉舞	
三村 信昭	私も入れて！	
秋本 伸明	エンジョイライフ	

小林 郁子	楽しい祭り	
江頭 良弘	石積み生を支える	
米山 好人	まだまだ現役	3枚組
藤崎 徹	初めての世界	
竜崎 浩	お散歩日和	3枚組
長尾 宏	晩秋のひと時	
内藤 正智	アタミカンザクラと春の空	
畠堀ひと美	初穀ふるい	
高木太三郎	水模様	
石川 英樹	有為の奥山	2枚組
根本 紀男	青春	3枚組
鳴海 廣治	渡れない橋	
土谷 尚雄	スケボー	3枚組
五十嵐 航	俗神	3枚組
田中 敏雄	郷愁	
林 知道	苦悶と救いと	3枚組
竹本 光雄	表情	3枚組
松田 修	小さな声（どちらとも言えないこと）	3枚組
富樫 正一	夕映えの棚田	
稲次 正知	沈まぬ太陽	
奥野 規	モノクロームの湿度	3枚組
山本 暁	雨の日のたんぽぽ	2枚組
田中 洋一	遊びの中で	
乾 清一	私の赤い靴	3枚組
大槻 操	終末	
竹田 宏司	洗濯日和	
大出 光信	おしあいへしあい	
高浦 正幸	中華街の朝	3枚組
白井 京子	朝のシンフォニー	
金子 紘	陰影	3枚組
一宮 美穂	雪の日の物語	3枚組
木所 栄一	浸入	3枚組

※掲載は作品番号順です。

今年の工芸部門は、応募作品の総数が130点で、審査の結果88点の作品が入選しました。

入選できなかった作品についてまず言っておきますと、もう一工夫・一仕事欲しいな、と感じさせるものが多かったように思います。その一工夫・一仕事が出てくるためには、素材についての経験と技術がある程度以上身につけていることが基本です（パワーで押し切る人もいますが）。それが不足している場合には、訴えるものがどうしても弱く感じられるのです。審査の基準として、技術力を決して第一義的に立てているわけではないのですが、工芸創作の特質として、やはり最低限の熟練度が前提となります。と、ここで敢えて申し上げるのは、日々精進を積まれて次回また挑戦してください、それが大切であるということを言いたいためです。

工芸部門が他の部門と大きく異なることのひとつは、素材が多岐にわたり——陶磁器、染織、ガラス、漆器、金工、木工、和紙のほか、人形、七宝など、制作目的も器物や伝統工芸的なものからオブジェまであって、制約とするものがほとんどないという点です。それに対して審査員1人1人がこれらすべてをオールマイティ的に評価するのは不可能と言わざるをえません。各審査員に得意・不得意の分野があるわけですが、全員（5人）が揃うことで全領域をカバーできるようにメンバー構成が考えられています。

しかし審査をやっていくと、それでも特定の作品に票が集まってくるという現象が起こってきます。なぜそういうことが起こってくるかといいますと、結局、素材や制作目的の違いを超えたもの——これを仮に「普遍性」と呼ぶとして——が伝わってきて、それが評価の対象となるということがあるからだと考えられます。その「普遍性」を作品がなんらかの形で獲得しているかどうかということが、重要な点なのです。その普遍性は、しかし頭で考えて備わってくるというものでもありません。冒頭にも書きましたように、工芸の場合には、日々の精進ということが、やがて普遍性を獲得するに至る最短の道である、ということです。

受賞作品のいくつかについて簡単なコメントを付しておきます。

大賞の宮尾洋輔作「Bench. Trust」は前回の準大賞に続いての最高賞の受賞です。工業的に加工された精度の高い板ガラスの物質感が、作者のオリジナルなわざと感性によってダイナミックに造形し、一つの世界を実現しています。審査会場でも一際目の覚めるような存在感を発揮していました。準大賞の今林三恵子「訪れの跡」は対照的に静寂感に満ちた円熟した作境をうかがわせる作品です。銅板をレリーフ状に打ち出して絵画的に表現しています。金属素材ながら柔らかさ、温かさ、悠久感を漂わせて、観る者を包み込むかのようです。

特選の原祥子「竹秋」は応募作品中唯一の紬織りの着物であり、いわゆる“伝統工芸調”の作品としても数少ないものの一点でしたので、朱色のグラデーションの鮮やかさもあいまって、審査員の注目を集めました。特選に選ばれたのは、この種の作品もほとんど応募して欲しいという審査員の気持ちの現われでもあります。同じく特選の興石孝志「全ての空間がパズルのピースになる瞬間」も応募作品中唯一の紙素材の切り絵ですが、精緻な制作振りが目を引きました。モチーフ、テーマともに昨年の応募作品から歩を進めて、ファンタジックな味わいがあります。奨励賞は玉川哲也作のガラスの鉢「開」。技巧の妙味を見せながらさわやかな情感に仕上げています。

美術奨学会記念賞は、35歳以下の若手・新人とおぼしき方々の作品に与えられる賞です。受賞した3点は若手らしいはつらつとした雰囲気や新鮮味、アイデアのユニークさなどが評価されました。

最後に、ホテルニューグランド賞の石橋聖肖作「夢想家の寝室」は収集された部品の取合せや、配置の間合いのとり方などに妙味があり、ストーリー性も盛り込まれて愉しめる作品です。



大賞

Bench. Trust

宮尾洋輔

フロートガラス

41×101×52cm 35kg

[略歴]

1972年 東京都生まれ
1997年 多摩美術大学デザイン科立体デザイン専攻クラフトデザイン専修 卒業
1999年 多摩美術大学大学院美術研究科修了
2007～2011年 多摩美術大学工芸学科ガラスプログラム非常勤講師
2010年 宮富ガラス工房を神奈川県足柄上郡松田町に設立

[展覧会歴]

1999年 日本のガラス展 入選
2000年 市政60周年記念伊丹酒盃台展 優秀賞
2004年 国際ガラス展・金沢 入選
2006年 現代ガラス展 in 山陽小野田 入選
2007年 国際ガラス展・金沢 入選
2012年 New Glass Review 33 The Corning Museum of Glass 入選
2014年 New Glass Review 35 The Corning Museum of Glass 入選
2014年 神奈川県美術展 工芸部門 準大賞
2015年 現代ガラス展 in 山陽小野田 渋谷審査委員賞 等



準大賞

訪れの跡

今林三恵子

銅 78×101×6.5cm 30kg

〔略歴〕

1935年生れ 逗子市で成長 35歳で金工と出会う
菅 省美先生、牧田良一先生に彫金 田中照一先生に鍛金を師事

〔受賞歴〕

神奈川県美術展工芸部門で特選1回
美術奨学会記念賞2回
大塚学院賞1回受賞
工芸美術日工会賞及び 会員賞受賞
日展入選4回



特選

全ての空間がパズルの
ピースになる瞬間

興石孝志

紙

50×50×5cm 1kg

特選

竹秋

原 祥子

絹

178×146cm 0.6kg





奨励賞

開

玉川哲也

ガラス
32.3×32.3×11.4cm 3.6kg

ホテルニューグランド賞

夢想家の寝室

石橋聖肖

真鍮、銅、銀、オバンコール
10×30×30cm 1.5kg



美術奨学会記念賞

犬

浅井友里

ガラス 30×45×20cm 3kg



美術奨学会記念賞

mayim mayim

山本貴美子

陶土 35×35×50cm 30kg



美術奨学会記念賞

仮面舞踏会

千葉真理

絹、染料 330×448cm 5.6kg

書道展の審査は難事である。芸術表現の判定にしばり込み審査をできれば良いのだが、矢張り技法の習熟度とか、文字の書き方が正しいか否かまで見わけねばならない。

このため、芸術表現を重視する判定と、より技法の習熟を重視する判定とが混在する。このバランスが取れているか否か。審査の蓋然性が問われることとなる。

今回の審査では、大賞・準大賞を始め、9点の受賞作品を見渡し、ほぼ理想的に審査判定がなされたかに感ずる。

受賞作の候補とされたのは、漢字4点、仮名3点、近代詩文3点、篆刻1点の計11点であった。この11点の表現を見渡し、篆刻が作品として見劣りがして、まずはずされた。

篆刻は11点出品されていたが、おしなべて表現が平均的で、強さに欠けた。篆刻は字法、章法、刀法の三法を基本とする。古代文字を篆刻は用いるから、まず、用いられている文字の構成が正しいか否かの字法が問われる。つづいて、文字を組み合わせる行く章法が問題とされる。出品の各作は、この両法をクリアしている。しかし、最後の刀法の生かし方に見るべき内容がなかった。

篆刻の表現が生きるか死ぬかは、刀法によることを心すべきである。

各賞候補仮名作品のうち1点は、精査すると誤字が見い出され、候補から外された、表現効果に気をとられ失敗を犯したケースである。漢字、仮名の伝統的書体では、ままだ見られるケースである。

書は造形表現を問う芸術であるが、文字を媒体とする以上、文字構造の原則を外し、過度な筆づかいを持ちこみ、表現の強さを求めることは許されない。注意すべきである。

したがって残された9点を対象に、5人の審査員が各自1点から5点までの投票をし、仮名と近代詩文の2点が同票の最高点となった。再度この2点を採決し、近代詩文の石井久美を大賞に、仮名の阿部馨月を準大賞に決した。

この両作品が優劣を分けねばならなかったのは、作品として打ち出されている表現の強さにあったと

いうべきであろう。

近代詩文作品は、第一義的に表現の強さを求める傾向がある。字数を少なくし、大き目の文字を求める手法が、筆力の強さを要求し、この傾きを増長する。

仮名作品は、特に伝統的な作風では、技法のしづまりが強い。もともと小字世界として展開されて来た仮名では、大字化に伴い線の弱さが露呈し易い。この欠点を補うべく、筆の運びに誇張を求めると、仮名本来の品格を減じ、誤字を招き易い。

表現手法における近代詩文書作品の優位さは、35歳以下を対象とする美術奨学会記念賞3点のうち2点までがその手法であったことでもわかる。技法習熟が伝統に立脚する漢字、仮名作品よりも、より短期に手に入り易いからではないか。

特選を受賞した生駒蘭嵩の王安石詩は、紅紙を用い、墨くろぐると、少し誇張をもまじえた筆づかいで、生新の気あふれる力強い表現を生み出した佳作であった。しかし、章法に、それ故と評せようか無理が認められたのは残念であった。

奨励賞の森俊行、三十六歌仙のうたは、中字の仮名を用い、行に文字をつめ、びっしりと密度ある文字群を線化し、仮名作品の表現の弱さを克服しようと試みていた。

特選・兎澤羊舟と美術奨学会記念賞の岡田佳舟、県文具事務用品団体連合会賞の池田玲子は、いずれものびのある筆で行草を書き、密度濃く好ましい世界を形作っていた。しかし、やや技法が前面に出てしまい、表現の核が薄い。作者の心持ちがもっと強く反映した盛り上がりが欲しいと願うのは評者のみではなかろう。表現の盛り上がり的特色を見せたのが川崎純子、日守錬であった。

岡田佳舟は28歳という年齢を考えると、筆がこなれ、良く書きこまれてもいた。

今回の出品点数は、漢字が55点、仮名が30点、近代詩文が34点、少字数が5点、篆刻が11点の総計135点であった。神奈川は書道王国と世上評されるが、この応募点数は淋しい。

今回の審査に臨んで、大変妥当な判定が行われていたと評者は感ずる。であるからこそ、一般の方々の多数の挑戦を期待したい。



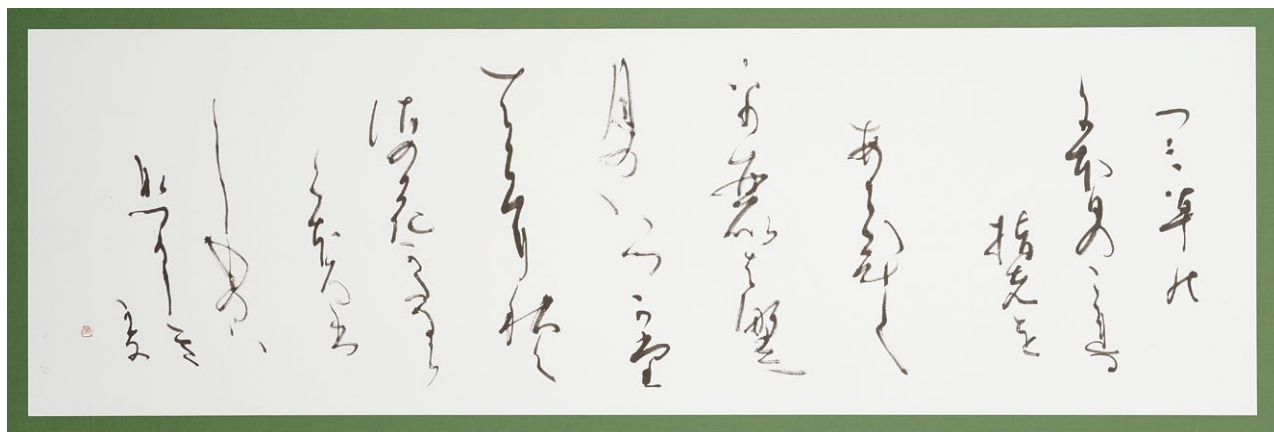
大賞

まちのあかねのトルファンの風
石井久美

182×61cm

〔略歴〕

1966年 神奈川県茅ヶ崎市生まれ
日守菜穂子に師事
1977年 高野山競書大会 金剛峯寺賞受賞
2008年 毎日書道展 毎日賞受賞
2011年 毎日書道展 秀作賞受賞
2012年 毎日書道展 秀作賞受賞
2013年 毎日書道展 秀作賞受賞
毎日書道展会員



準大賞

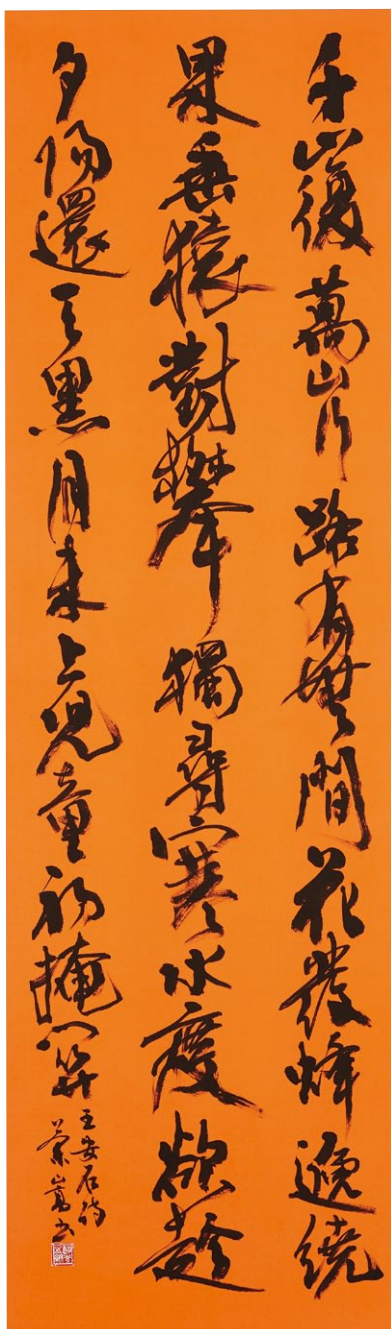
摘草

阿部馨月

61×182cm

[略歴]

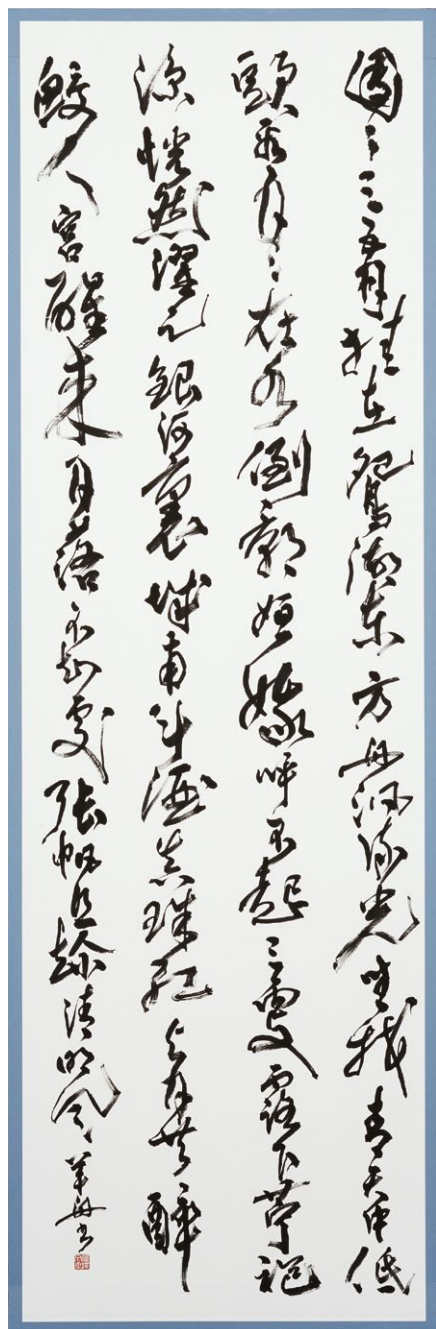
- 1954年 三重県津市に生まれる
- 1977年 大東文化大学卒業
- 1995年 齊藤紫香先生に師事
- 2008年 読売書道展奨励賞
- 2009年 読売書道展奨励賞
読売書法会幹事



特選

王安石詩
生駒蘭嵩

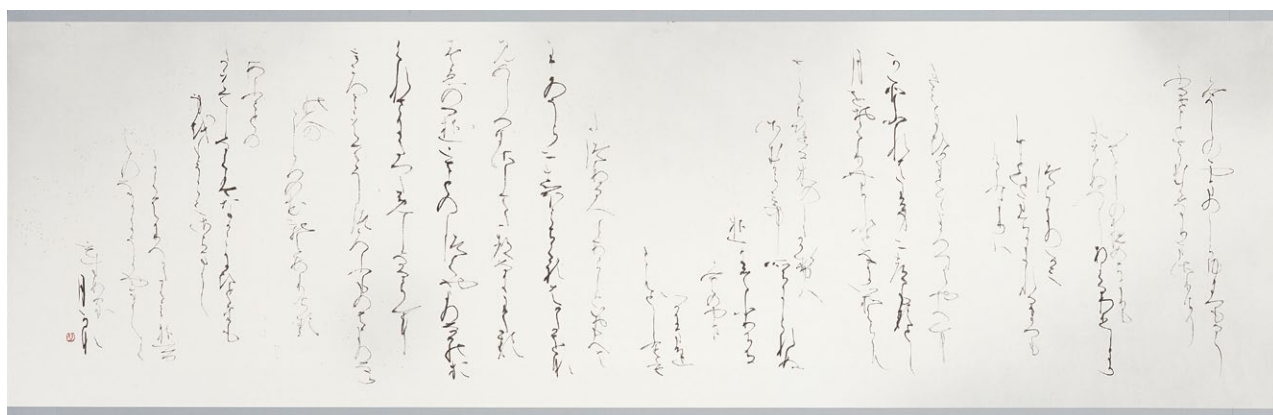
182 × 61 cm



特選

鴛湖舟中翫月
兔澤羊舟

182 × 61 cm



奨励賞

三十六歌仙のうた

森 俊行

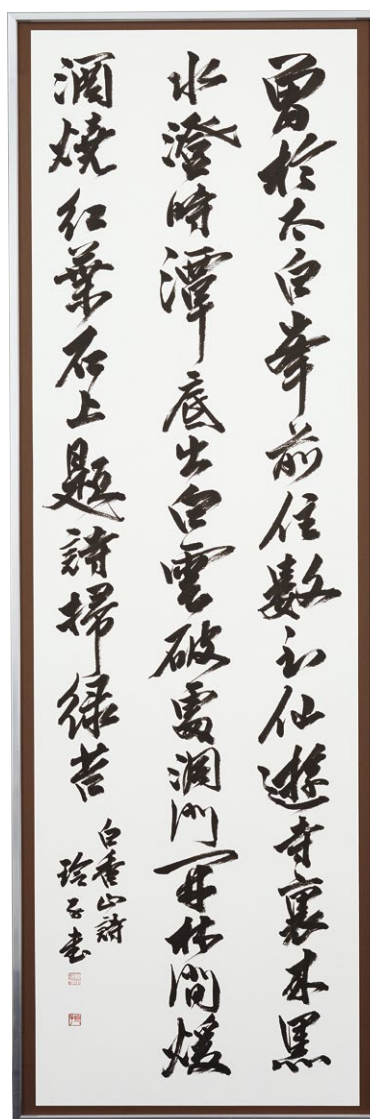
61×182cm

県文具事務用品団体連合会賞

白香山詩

池田玲子

182×61cm





美術奨学会記念賞

後藤美華の詩 無花果
川崎純子

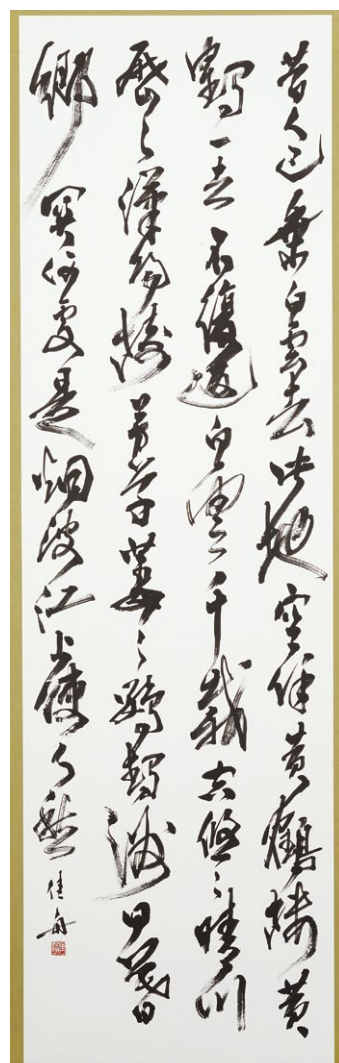
182×61cm



美術奨学会記念賞

痛みの彫刻
日守 鎌

182×61cm



美術奨学会記念賞

黄鶴樓
岡田佳舟

182×61cm

今回は主催者の英断もあり、出品料が改訂された。果たしてこれによって応募数が増えるかどうか、正直、審査関係者にも一抹の不安があった。ふたを開けてみれば昨年からはほぼ倍増の応募があり、ほっと胸をなでおろすことになった。

一方、応募が増した分、作品レベルに大きなバラツキが出てくることが予想された。しかし並べられた応募作品をひとあたり見回すと、昨年よりむしろレベルが一段あがった感じ。様々なジャンルにわたりバラエティにも富んでいた。作品の仕上げ（プリント）にも大きな凸凹が見受けられなかった。

全体的な作品傾向としては、まず近年しばしば言及される、人を対象にしたスナップの減少がある。撮影者の日常周辺にある人の営みや、路上の人々の身振りが写真記録からどんどん消えてゆくような気がして、寂しい思いがする。社会的なモラルの存在は致し方ないが、本来写真が持っていた有効な力が失われてゆくことにならないか、気鬱な現象である。またこれと関連して、例年なら見受けられる、子供を主役とした明るく楽しいショットも少なかった。審査員からは「なんとなく色気がないねえ」とか「真面目すぎる」とか贅沢な声もあがった。確かに前記のように平均点の作品が多く、「ハジケた写真が見当たらない」というのもうなづける。またかつての定番の一つである「家族スナップ」をほとんど目にしなくなったことも特徴的だった。推測だが、これはスマホによる撮影が当たり前になった影響かもしれない。家族の記録はスマホでということなのか。

そんな平均点（あるいは平均点+）の作品が拮抗するなかで、大賞の「顔」はほぼ満場一致で圧倒的な支持を得た。マグロの頭と尾を画面いっぱいにとらえた、ケレン味のないカメラワークが写真を見る快楽を満喫させてくれる。すでに「静物」なのに画面から飛び出すような躍動感さえ感じられる。準大賞「夏の記憶」は一見少女っぽくも見えると魅力的な

少年の、静かだが強い目の力がすべてだ。ビーチボールを持つ手や、ちょっと足を開き気味にした半身の仕草の可愛さも、この少し大人を感じさせる目の力があってこそもの。特選「雨上り」はもっと子供らしくその大らかな大の字ポーズが目を和ませてくれる。もう一つの特選「曼荼羅」はデジタル処理かあるいはフィルターワーク？と一瞬思わせる不思議な作品。こんな場所を発見した眼力とアイデアの勝利。奨励賞「台風一過」の波の迫力はまさにフォトジェニックだ。背景には富士が見え、波にもまれる鳥居が見える。こんな光景があるのだろうかと思嘆する。美術奨学会記念賞「眼差し」3枚組は動物の顔を大胆にとらえ、あたかも人の表情のようにも見せる。同じく「静かな雨」は水の質感と光の感触をシンボリックに3枚で響き合わせる。同じく「光の空間」は古い教会らしき建物の全景と内部を過不足なく組み、静かに流れる時間を描く。ニコン賞「波飛沫」は文句なしの決定的瞬間。「やったぜ！」という撮影者の快哉が聞こえてくる。

最後に一つだけ気になることが。今回、3名もの枠がある美術奨学会記念賞の対象ともなっている35歳以下の応募が極端に少なかったことだ。昨年からスタートした中高生特別企画展には多くの応募があり活況を呈したが、こちらは残念な結果。世代的な事情や状況があることは事実だが、来年はこの世代の応募が少しでも増えることを期待したい。



大賞

顔

小川 賢

〔略歴〕

1932年 京都市生まれ

1952～1956年 大学在学中写真部活動（現在OB会員）

1956～1998年 東京・横浜、就職のため写真活動とやめ

1998年 退職後、再び趣味として写真活動を再開した

全日本写真連盟神奈川本部入会

〔入賞歴〕

2005年 全日本写真連盟神奈川本部月例年度賞 第1位

2008年 全日本写真連盟神奈川本部月例年度賞 第1位

2013年 全日本写真連盟神奈川本部月例年度賞 第1位

2002年 全神奈川写真サロン公募展 全日本写真連盟賞

2008年 全神奈川写真サロン公募展 全日本写真連盟賞

2010年 全神奈川写真サロン公募展 全日本写真連盟賞

2009年 神奈川の風景コンテスト 最優秀賞

2011年 神奈川の風景コンテスト 朝日新聞社賞

2014年 神奈川デジタルコンテスト 朝日新聞社賞

2008年 フォトシテイさがみはら 金賞

2010年 オール朝日フォトフェスティバル 最優秀賞

2011年 二科展写真部展 入選



準大賞

夏の記憶

稲垣 健

[略歴]

- 1973年 横浜市生まれ。
- 2010年 APAアワード2010(第38回日本広告写真家協会公募展)
写真作品部門 入選
- 2011年 横須賀写真連盟公募展 準大賞
- 2012年 奄美市美展 写真部門 入賞
- 2013年 神奈川県美術展 写真部門 入選
- 2014年 横須賀写真連盟公募展 入賞
- 2014年 神奈川県美術展 写真部門 入選



特選

雨上り
馬場純子



特選

曼荼羅
大澤 勇



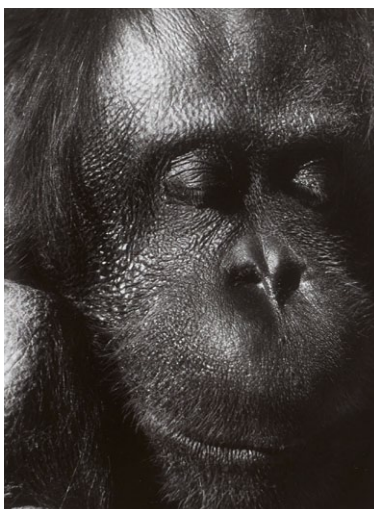
奨励賞

台風一過
高橋春生



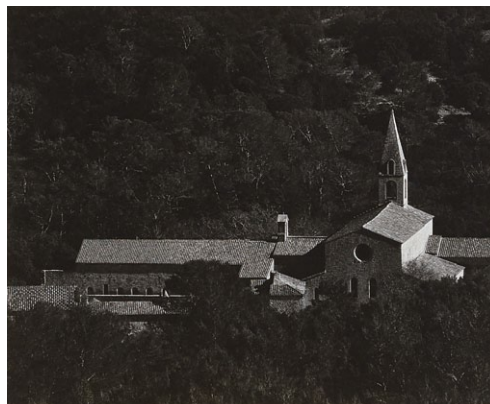
ニコン賞

波飛沫
牛木 実



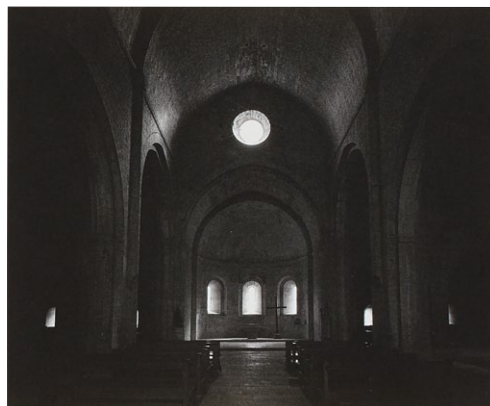
美術奨学会記念賞

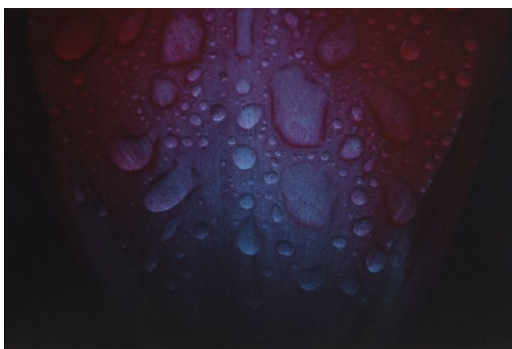
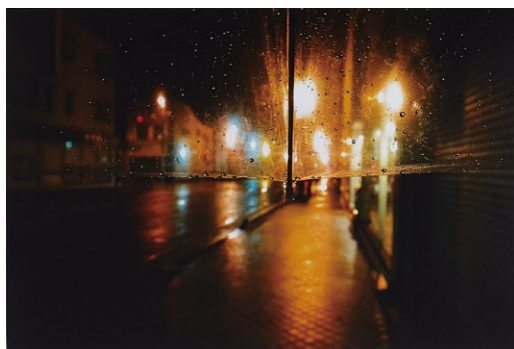
眼差し
糸川将志



美術奨学会記念賞

光の空間
鈴木元彦



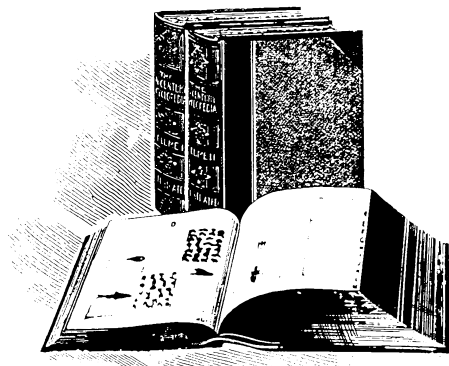


美術奨学会記念賞

静かな雨
星崎裕基



BOOKS & STATIONERY



有隣堂

《取扱商品》書籍／文具／事務用品／OA機器／画材
製図・デザイン用品／楽器・音楽教室／出版ほか

伊勢佐木町本店／伊勢佐木町本店別館コミック王国／横浜駅西口ザ・ダイヤモンド店
横浜駅西口エキニア横浜店／横浜駅西口コミック王国／ルミネ横浜店／戸塚モディ店
戸塚駅地下売店／戸塚駅西口ツカーナ店／トレッサ横浜店／長津田店／たまプラーザテラス店
センター南駅店／藤沢店／トレアージュ白旗店／テラスモール湘南店／ラスカ小田原店
厚木店／本厚木ミロード南館店／アトレ川崎店／川崎アゼリア店／武蔵小杉東急スクエア店
新百合ヶ丘エルミロード店／淵野辺店／ミウヰ橋本店／セリオ八王子店／YURINDO annex
ルミネ町田店／町田モディ店／アトレ目黒店／アトレ恵比寿店／アトレ大井町店
グランデュオ蒲田店／羽田空港店／ヨドバシAKIBA店／錦糸町テルミナ店
アトレ亀戸店／小岩ポポ店／シャポー市川店／アトレ新浦安店／STORY STORY
医学書センター 北里大学病院店／藤沢ミュージックショップ
関内ミュージックサロン／横浜ミュージックサロン／戸塚ミュージックサロン
藤沢ミュージックサロン／川崎ミュージックサロン／保土ヶ谷ミュージックセンター
二俣川ミュージックセンター／港南台ミュージックセンター／戸塚カルチャーセンター

営業本部／横浜市戸塚区品濃町881-16 TEL(045)825-5551 <http://www.yurindo.co.jp/>

人から人へ情報を伝えて69年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

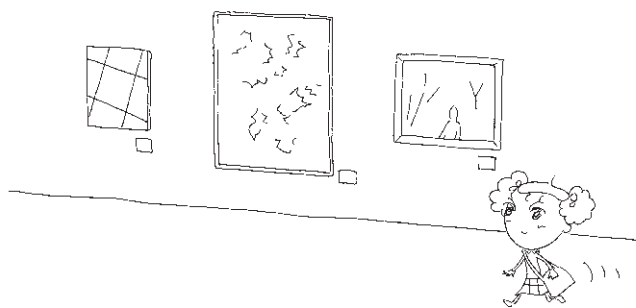
株式 会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 51st Kanagawa Art Exhibition 2015
第51回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール 事業課内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2015年9月2日



©Tomoko Fukushi